

---

# ヒナゲシの華

水無月奎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒナゲシの華

### 【NZコード】

N5189Z

### 【作者名】

水無月奎

### 【あらすじ】

ヒナゲシさんには同じ年の従姉妹がいます。似通った名前のヒナちゃん。しかし似て非なるもので、顔が違う、スタイルも違う、性格も違っていて、まさに我が人生は比較に始まり比較に終わる。いや、仕方ないんですけどね、現実はいつだってシビアで物語のよくな甘い展開はありえなくて——あれ、目から汗が。減った、今確実に心の中の何かが減った。

そんなヒナゲシの十三からの人生です。あまじょっぱいよ！

彼女にはファンタジックに生きてもらひつつと想つてます。

似て非なるヒナ（前書き）

さてさて、物語の始まり始まり。

## 似て非なるヒナ

悲劇は、外から見ると喜劇に見えることがある。

対岸の火事であれば、何事もなく平和に滞りなく進むストーリーより、キャストが四苦八苦していることこそが面白い。

その苦悩する様が、涙する顔が、激昂するのが嬉しいのだと。他人とは得てしてそんなものなのだ。

などと悟りきつた冒頭を語る私、名をヒナゲシという。漢字は離體粟なのだが、素直にこれが書けるだろうか。いや、書けまい。というわけで、だーれも漢字を思い浮かべて私の名を呼ばないため、ヒナゲシなのだ。

そんなヒナゲシさんが、何人生悟りきつちやつた枯れた台詞呴いてるの、ってな話だが、今現在悲劇真っ只中だからである。他人には面白くて仕方ない類いの。

ヒナゲシは農耕して生計を立てているちつちつな村の小娘なのだが、まるつきり同じ年の従姉妹がいる。名をヒナコ。

この村で年齢がぴったり同じなのは一人だけ。2~3離れた上と下の娘さんもいるが、十三なのは一人だけ。

親も姉妹とくるから、何かと比較されて生きている。

その比較こそが悲劇。他人から見れば喜劇。ちくしょう、運命を呪いたい。

ヒナコとヒナゲシ、という響きは似ているのだが、顔面とスタイルと漢字まで『似て非なるもの』、という言葉がピタリと当てはまる。上に見られる側はいい。~より可愛いね、~より似合つね、~より好きだなあって褒められフイーバーだ。

が、下に見られる方がからしてみたら。～より可愛くない、～と同じように出来ないの？、～だつたら良かつたのに、と。まるで存在するものが悪かのように言われまくる人生をひつ被らされるのだ。詰んでる。人生詰んでるよね。この先の人生全て見えた気分だ。

これが母の語る物語ならば、こんな器量悪しの娘にも一途に想つてくれる男というものが存在するわけだが。

人生、そんなに都合良くなはないか。現実はいつだつてシビアだ。初恋以降全ての恋心を踏みにじられ続けた私は、既に悟りきつてい。まともな恋愛はもう諦めよう、と。

きつといつかあぶれた男性と見合い婚だ。それも嫌がられるなら、一生独り。あつ、泣いてないから。これ、ただの汗だから。

大人たちの心ない言葉はもうグッサグサとヒナゲシの心を突き刺している。その上で成り立つた性格だ。もう清い心のあの頃には戻れない。人生、諦めが肝心である。

どんな台詞にもめげない鉄の心。傷ついた表情など、周りを喜ばせるだけ。そういうわけで、今のヒナゲシは完成している。親も遠い目をする、時々。

「ヒナちゃん！」

いかにも女の子らしい、甲高い声が響く。村を見下ろせる位置で突つ立つっていた私は、顔を上げた。

「ヒナ！」

無垢な笑顔全開で走り寄ってきたのは、話題のヒナコさんだった。遠目から見ても可愛い。軽く死にたくなった。

「 もへ、ヒナちゃんつたら…すぐに居なくなるの良へないよ…」

いや、お前に何故にすぐ真横に並びたがるのか。おかげさんで比較しやすく、ますます私は悪し様に言われるのである。

そんな事よりも。

ヒナコの背後に田を移し、うんざりとした。また増えている。

「 後ろの男ども、また増えてんじやん。何で連れてくるかな…」

十三ではあるが、十分女の子らしい可愛さがあるヒナコは、村中の男をもれなく骨抜きにした。その射程範囲は十代に留まりず、二十代三十代にも及ぶ。ロリコン野郎が多過ぎて死にたくなる。逆ハーレムというものらしい。縁のない言葉だつたが、ヒナコが身近にいることで、嫌でも野郎どもの醜い争いを間近で見続けるはめになつた。

「 それにヒナつて呼ぶのやめて。それ、あんたのことだから。むしろ村中の共通認識だから」

それをあえて私に使うのだから、嫌がらせなのかと言いたくなる。あつちのヒナちゃんは可愛いけど、こつちのヒナちゃんは、ねえ…？なんて大人たちに言われてみやがれ。確実に何かが減るぞ。

「 いいじゃない、ヒナちゃんと私しか、ヒナつていないんだよ」

うん、貴様が考えなしなのはわかつた。ありがとう、君の無邪氣でより一層傷つけられます私。

背後に並ぶロリコンどものうつとり顔も吐き気に繋がる。私の体調不良は貴様らのせいだ。死ねよほんと。

「ねえヒナちゃん、今度の収穫祭で歌と踊りを披露するの」

「ぜつてえー嫌だ」

「まだ言い切つてないのに」

何が言いたいのかは瞬時に把握した。

この幼馴染は、本気で理解しないのかと突き詰めたくなるほど、私と同じ舞台に立たそうとする。それがどんな悲劇を引き起こすか知らないで。

歌と踊り? こいつと一緒にやつてみやがれ。ますます格差社会が生まれるじゃないの。主に私とヒナコの間に。

何でお前いんの? と怪訝な視線を集める晴れの舞台での羞恥プレイは一度で十分だ。そこに思い至らなかつた過去の自分も抹殺してしまいたい。

ヒナコとヒナゲシさん。二人一緒に赴けば、お呼びでないと聞いた  
げな怪訝な顔をされる辛さがご理解いただけるだろ? うか。  
何でここに居るの? 何で?

これほど人を傷つける視線があるだろ? うか。奴らは覚えてなからうが、私は過去の一つ一つ覚えている。簡単に許せるわけがない。ど  
どのつまりは孤立してゐることなんだけど。死にたいです。

「ヒナコが一人で歌つて踊ればいい。どうせみんなが見たいのはヒ  
ナコ一人なんだから」

ざあ、と気持ちの良い風が吹き、目を細める。ここで居眠りしたら  
さぞかし気持ちが良いだろうが、そろそろ夕飯の支度がある。

「じゃーね」

求められるヒナコと求められないヒナゲシ。

求められない存在は、どこへ行けば良いのでしょうかねえ？？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5189z/>

---

ヒナゲシの華

2011年12月17日18時55分発行